

# 廃校の寂しさ 一冊に



菅谷誠さん

この四半世紀に廃校になった道内の4小中学校の、かつての学校の様子と閉校後の地域の姿を描いた単行本「廃校のうた」が、札幌市の出版社、柏艚舎から発刊された。元新聞記者菅谷誠さん(60)が二十数年前に取材した記事と、再取材した内容で構成し、時代の变化に翻弄された地方の姿を記録した労作に仕上がっている。

取り上げたのは宗谷管内旧歌登町(現枝幸町)の辺毛内小学校、後志管内神恵内村の川白小中学校、留萌管内苦前町の三溪小学校、宗谷管内利尻町の久連小学校。いずれも農漁

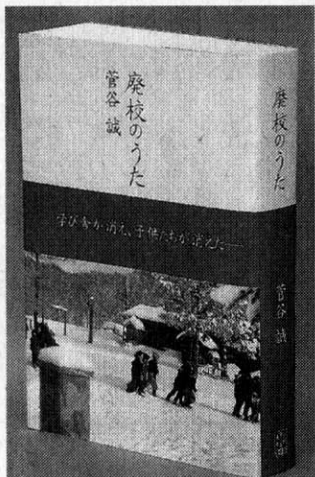
## 元新聞記者菅谷さん 辺毛内小など4校取材

村の小規模校で、開拓や入植とともに誕生し、過疎や少子化を背景に既に閉校した。菅谷さんは元朝日新聞記者で1983年から86年まで道内に勤務し、4校を含む各地の小規模校を取材。2年前から、地域の変遷をたどろうと再取材を重ねてまとめた。

かつて菅谷さんが取材、執筆した記事や写真のほか、再取材した閉校後の地域の様子、関係者の声をまとめ、各自自治体の学校数の変遷なども付けた。三溪小元校長の故関三雄さんが撮影した1950年前後の校舎や学校行事などの貴重な写真も収録した。

現在は横浜市在住でフリーで翻訳や執筆などに携わる菅谷さんは「簡単に『廃校』と言うが、そこを母校や拠点として人々が暮らし、人生があったことを忘れ去ってはいけないうと思う」と話している。

B6判354ページで定価1890円(税込み)。



出版された「廃校のうた」